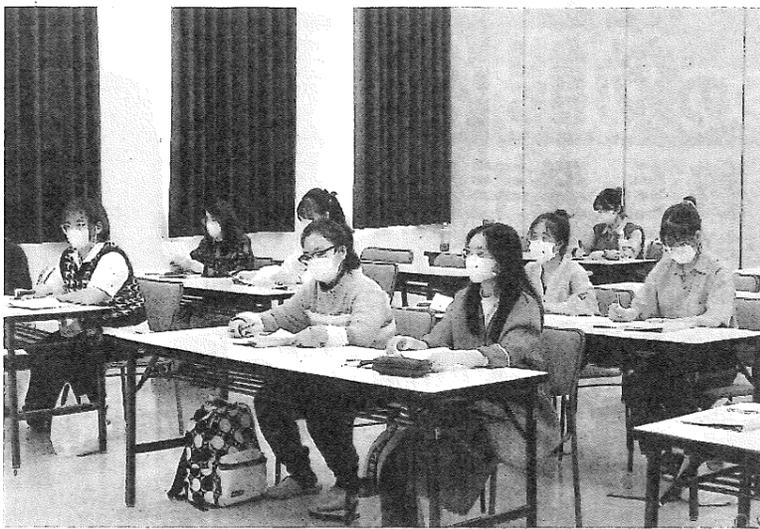


県内施設で受け入れ広がる

少 子高齢化の急速な進展に伴い介護人材が不足する中、県内でも介護現場で働く外国人が増えつつある。多くは技能実習や特定技能の制度で在留し、介護施設などで働きながら日本語を学習している。「いい日、いい日」にかけて厚生労働省が定めた11月11日の「介護の日」を前に、外国人介護人材の受け入れを支援する県の取り組みとともに、県内の介護現場で活躍するベトナム人技能実習生たちを紹介する。



真剣な表情で研修を受講するベトナム人技能実習生たち＝水戸市鯉淵町

外国人も担い手に

介護福祉士取得を支援

「とにかく日本人としゃべってください。職場にいるベトナムの人とも日本語で話しましょう。使わないと覚えません」

10月31日、水戸市鯉淵町のいばらき中央福祉専門学校で開かれた、県外国人介護人材育成ヒギナース研修。講師の呼びかけに、受講したベトナム人技能実習生の女性12人は真

人材育成研修

剣な表情でうなずいた。彼女たちは、県がベトナム・ロンアン省と締結した協力覚書に基づき、同国の介護技能実習生を県内介護施設で受け入れて介護人材を育成するプログラムの「茨城県コース」1期生。昨年11月までに来日し、現在は県内6法人の6施設で働く。今回の研修は、同コースや県内施

設から選抜した技能実習生を対象とする、県の日本語能力向上支援事業の一環。「介護」の在留資格が得られる介護福祉士の国家試験合格を後押しするのが目的だ。鹿嶋市内の介護施設に勤務するチン・ティ・ニャンさん(24)は「難しいところもあったが、半分は理解できた。介護福祉士の試験を受けたので、研修は役に立つ」と意欲的。「日本語とともに、もっと介護の勉強をしたい。もし介護福祉士の資格が取れたら日本で働きたい」と話した。

漢字の難しさ

順調にいけば2年後にも介護福祉士の受験資格を得られる彼女たちが立ちふさがるのは「日本語能力」の壁だ。ひらがな、カタカナのほか、漢字もある日本語は特に難解な言語とされ、介護の専門用語も多い。ヒギナース研修と同時間帯、隣の部屋では彼女らを受け入れる施設職員を対象とした研修も開かれた。講師を務めた日立さくら日本語学校の松浦みゆき校長は「仕事と勉強をつなげるのがポイント。そういう工夫をしてほしい」と話し、日常の業務を通じた日本語習得の重要性を強調した。

ペルシャ語の書き取りを通じ、外

国人から見た漢字の難しさを実感するワークも行った職員らは「勉強しながら働く苦労がよく分かった」「楽しみながら覚えられる方法を考えた」などと感想を話した。

県内へ定着を

県福祉政策課によると、県内の介護施設などで働く外国人は、「留学生(介護)」が約250人(4月1日現在)、「技能実習生」が348人(同)、「特定技能1号」が532人(昨年12月末現在)。ほかに経済連携協定(EPA)に基づくインドネシア、フィリピン、ベトナムからの受け入れは4月1日現在、74人が県内施設で就労している。

国別では、技能実習、特定技能はともに、ベトナム、ミャンマー、インドネシアの順に多く、留学生は近年、ネパールが増えている。県は、外国人受け入れ支援策として、介護福祉士を目指す外国人への研修実施や学習支援などに加え、介護福祉士養成校への外国人留学生の受け入れ支援にも力を入れる。同課の菊地みち子副参事は「県内でも介護人材が不足する中、外国人の受け入れとともに、日本語能力の向上などを支援し、将来的に県内への定着を目指していきたい」と話した。

ベトナム人技能実習生3人 働きながら 日本語学習



県内で多くの外国人が介護現場で活躍する中、筑西市上平塚の特別養護老人ホームしらとりでは、ベトナム人技能実習生3人が働いている。県が同国ロンアン省と連携して設けた外国人材受け入れプログラムの「茨城県コース」1期生で、来日から約1年。日々、介護の実務経験を積みながら、介護の知識や日本語を学んでいる。

主な業務は、入居者の食事や排せつ、入浴の介助。南国のリゾートホテルをイメージした施設内で、制服のアロハシャツ姿

特別養護老人ホーム しらとり (筑西市)

で入居者に接する姿も板についてきた。日本の文化や介護の仕事を学びたいと同コースに参加したチャン・ゴック・イエン・ニーさん(27)は当初、日本語が難しく仕事をすることで苦労したと振り返る。それに対し、同僚の日本人職員らが、口頭だけでなくメモに書いて繰り返し確認できるようにしてくれたり、家電などのボタンに直接番号をふって分かりやすく説明してくれたりしたという。日本語でのやり取りにも徐々に慣れ、今では



入居者の食事介助をするニーさん＝筑西市上平塚

「仕事を」やればやるほど好きになる。入居者の方と話すのも日本語の勉強になって楽しい」と笑顔で語った。

オンラインでも

業務の傍ら、日本語の勉強に打ち込む3人。ニーさんは仕事が終わってから3時間程度勉強

介護の日

写真作品展

17・19日・ひたちなか

11月11日の「介護の日」の関連行事として、県老人福祉施設協議会(菊池義会長)は、「介護の日」感動、感激、心温まる写真コンクール」作品展を17・19日、ひたちなか市新光町のファッシュコンクールズニューポートひたちなかで開催する。

展示されるのは同コンクールの入選作品で、現場での介護従事者と利用者とのふれあいの中、日々たくさんの感動や感激であふれている心温まる一場面を捉えた。

今月中旬からは同協議会のホームページ上で応募作品全222点を見ることが出来る。問い合わせは、同協議会 ☎029(241)8529。